

インフル予防接種開始

コロナ同時流行備え 65歳以上優先

新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に備え、65歳以上の高齢者らへのインフルエンザワクチンの優先接種が1日から始まった。高齢者は重症化しやすく、同時流行すれば、医療崩壊を招きかねない。厚生労働省は「高齢者は確実に予防接種を受けてほしい」と呼びかけている。

人ひとりの予防接種の積み重ねが、命と地域医療を守ることにつながる。今季は特にワクチン接種が大切」と力を込める。

インフルエンザは毎年1000万人程度がかかる。ワクチンには重症化を防ぐ効果があるとされ、65歳以上の高齢者らが定期接種の対象だ。今季の供給は過去

5年で最も多い最大約6300万人分を予定する。せきや発熱などの症状が新型コロナウイルスと共通し、区別が難しい。医療機関が混乱する恐れもあり、厚労省は「ワクチンのあるインフルエンザの重症者を減らすことが重要」と説明する。

持病のある高齢者が多く通院する大阪市都島区（旧）の泉岡医院には1日午前から、高齢者らが次々と訪れ、この日だけで19人が接種を受けた。今季は希望者が多いという。同区（旧）の古島栄江さん（75）は「少しでも重症化の危険を減らしたかった。これで少し安心して冬を迎えられる」と話した。

インフルエンザワクチンの接種スケジュール

10月1日

10月26日

65歳以上の高齢者ら

それ以外の希望者

- ・医療従事者
- ・持病のある人
- ・妊婦
- ・生後6か月～小学2年生

早めの接種呼びかけ

※厚生労働省の資料を基に作成



インフルエンザの予防接種を受ける女性（1日午前、大阪市都島区で）＝榎田直也撮影

よう呼びかけており、幼い子どもを持つ親らには困惑が広がる。今秋から子どもへの接種への助成制度を拡充した神戸市には「26日までワクチンを打てないのか」など1日あたり10件以上の問い合わせが来ている。

小児への接種時期を一律に遅らせることは避けるべきだとの見解を示す。

例年、10月前半から小児への接種を始める医療機関が多い。日本小児科医学会は「乳幼児はインフルエンザ脳症のリスクもある」とし、

大阪府富田林市の「ふじおか小児科」には例年の1・5倍の約1000件の予約が殺到している。藤岡雅司院長（61）は「インフルエンザの大きな流行は学校や幼稚園などで起きる。小児の接種を後回しにすべきではない」と強調している。